

あじさい
紫陽花が見ごろの季節を迎えました。
館内入り口にも今年は生花の紫陽花を飾りました。
青と白の色彩が、蒸し暑さをやわらげてくれます。
館内では美術部の「春の陣」がはじまりました。
油絵の大作から、クレパスの小品まで
さまざまな作品が創造の世界に誘ってくれます。
7月7日の七夕の日まで鑑賞できますよ。



■ 今月の新着図書から ■



『自分疲れ』 分類 114

頭木弘樹 / 創元社

買ってきた服がなんとなく似合わないと思うように、“なんか自分がしっくりこない”、または“自分の性格が好きではない”と疲れを感じたことはないでしょうか？なぜ自分に疲れてしまうのか、「自分」って何なのか？10代からのココロとカラダの対話シリーズ。



『難民の?がわかる本』 分類 369

木下理仁 / 太郎次郎社

6月20日は「世界難民デー」です。難民については入管法の改正により、難民申請3回目で強制送還が可能、という変更がなされました。日本に助けを求め、逃れてきた人々はどうのような人たちなのか、ぜひ知ってほしいです。



『離島熱球スタジアム』 分類 783

菊地高弘 / 集英社

鹿児島県の大島高校。かつて離島から甲子園へ出場することは、夢のまた夢だと思われていました。しかし、強豪私学の勧誘を断った逸材ピッチャーの大野稼頭央（現ソフトバンク）を中心に、離島から甲子園出場の切符をつかんだ実話。



『ナゾトキブック』 分類 798

QuizKnock / KADOKAWA

Webメディア「QuizKnock」で連載されている「ウィークリー謎解き」から、厳選された問題を集めたのがこちらの本。

QuizKnockは東大クイズ王の井沢拓司さんを中心とした10人ちょっとのグループ。レベル別のナゾトキとはいえ、レベル1でもすんなりとはいきませんよ。



『7.5 グラムの奇跡』 分類 913

砥上裕将 / 講談社

視能訓練士となった野宮の働く眼科には、さまざまな患者がやってくる。モデルをしている遥香は、目に激しい痛みが生じ、失明する可能性もあるといくら説得しても絶対にカラコンを外したくない。彼女がカラコンを外さない理由とはいったい？

タイトルの7.5グラムとは瞳の重量だそうです。視能訓練士という仕事も含め、知られざる眼科の世界でした。



『都会のトム&ソーヤ 20』 分類 913

はやみねかおる / KADOKAWA

はやみねかおるの大人気シリーズの20巻目。

すでにご存じ、頭脳明晰な創也とサバイバル力のある内人。内人ら同窓会のメンバーは、小2のときのタイムカプセルを掘り出すために網野山へ向かう。創也は学校が違うものの、仕事という事で呼び出され...

シリーズ初期の頃を思い出させるようなワクワク感に満ちています！

Oxford

A Very Short Introduction

シリーズをまとめて入れました!

日本では「一冊でわかるシリーズ」として岩波書店から翻訳版が出版されている、オックスフォード出版の「A Very Short Introduction」シリーズ。

「法律」「遺伝子」「戦争と宗教」「公民権運動」「平和」「アフリカ系アメリカ人」……など、多様な分野をテーマごとに1冊でまとめ、概略を解説している英語のシリーズです。

「このシリーズがまとめて入っているといいな」という生徒からのリクエストがありましたので、今後も出版年の新しいものから蔵書を増やして行く予定です!



●今月の主な館内展示

「難民・移民について」の図書展

6月20日は国連が定めている「世界難民デー: World Refugee Day」です。

この日にあわせ、メディアセンターでは毎年6月は難民と移民をテーマとした図書展示をしています。

ノンフィクションはもちろん、難民をテーマとした小説や絵本もならべています。

<ノンフィクション>

『ボーダー 移民と難民』佐々涼子 集英社インターナショナル

『移民や難民ってだれのこと?』マイケル・ローゼン 創元社

『となりの難民』織田朝日 旬報社

『わたしは13歳、シリア難民』国境なき子どもたち 合同出版

<フィクション>

『ザ・デイスプレイスト』ヴィエト・タン・ウェン ポプラ社

『明日をさがす旅』アラン・グラッツ 福音館書店

『難民になったねこ クンクーシュ』マイン・ヴェンチャーラ かもがわ出版



など、このほか多数!

本棚 今年は今期
末テストが七月から
六月となり、「テス
ト勉強をしないとな
らないから、今は本
を読むのは我慢して
る」という声が。放
課後も静かに勉強を
している人の姿が見
られます◀一方でス
ポフェス前の五月から
図書委員会では九月
のスクフェス準備をは
じめています。スクフ
エスに参加する委員
会は少ないですが、一
回生の頃からほぼ毎
年図書委員会は参加
してきました。九月に
なると学年や部活の
出し物準備で忙しく
なるために、早めに準
備をしておく、という
伝統が続いているよ
うです。お昼休みもク
イズの景品になる「ミ
ニ本」作りをしていま
す。今年のスクフェス
は一般の来場者もこ
られるようになり、小
さい子どもたちにも
楽しめる絵本の空間
を予定しています
(渡邊)